

ビルロートとブラームス

札幌市医師会
北海道労働保健管理協会

真鍋 邦彦

ビルロートとブラームスは、それぞれの分野で大変有名な人物です。しかし、両者が音楽を通じて親交を深めていたことは、あまり知られていません。私は、いつか両者の関係を整理してみようと思っていました。今回、寄稿のご依頼を頂き、まとめました。

1. 二人の経歴と接点

1) テオドール・ビルロート

1829年4月26日：ベルゲンで生まれる。
1848年：音楽家志望だったが医学部入学。
1859年：チューリッヒ大教授就任。新聞に音楽評論。
1865年晩秋：ブラームスと知り合う。

2) ヨハネス・ブラームス

1833年5月7日：ハンブルクで生まれる。
1843年：公開演奏会出演。
1853年：シューマンに認められる。
1862年：ウイーン進出。

2. 親交と栄誉

1) ビルロート

1866年：ブラームスがビルロート邸訪問。
1867年：ウイーン大教授就任。
1882年：ベルリン大教授招聘、ブラームスと別れ難く、辞退した。

2) ブラームス

1872年：ウイーン楽友協会芸術監督就任。
1873年：バイエルン王より功労勲章授与。
1878年：ビルロートと第1回イタリア旅行。外国語が苦手なブラームスにとって、英語・イタリア語が堪能で旅行好きなビルロートは絶好の友であった。
1879年：ブレスラウ大学名誉哲学博士。
1886年：ウイーン音楽家連盟終身名誉会長。
1887年：プロイセン国家より功労勲章授与。
1889年：ハンブルク名誉市民、皇帝より勲章授与。
1895年：皇帝より金メダル授与。

3. 破局

1887年頃より二人は加齢とともに頑固になり、混乱と緊張が生じる。
1891年：二人の間にさまざまな行き違いが生じる。
1892年：ビルロートの公式パーティーでブラームスが尊大・傲慢な振る舞いをした。

1893年：ブラームスがビルロートの民謡研究結果に徹底的に反論。

1894年：ビルロートの質問にブラームスから辛辣な返事、二人の文通は絶える。

4. 終焉

1) ビルロート

1887年5月：肺炎発症、呼吸困難・高熱続く。心不全併発、ジギタリス服用。一時回復したが、呼吸困難を繰り返した。

1893年夏：病状悪化、9月には回復、ジギタリス服用中止。12月中旬から呼吸困難と不眠、全身に浮腫。

1894年2月6日早朝：利尿処置も効なく死去、死因は「心臓麻痺」。享年64歳。

2) ブラームス

1896年7月：全身疲労感・黄疸出現。9月、肝癌の診断。父と同じ病気であった。しきりにビルロートのことを気に掛けていた。

1897年4月3日朝：見舞客を見送った家政婦がベッドの傍に戻ると、気配で目覚めたブラームスは「ありがとう」と囁いて息を引き取った。享年63歳。

5. エピローグ

1894年2月9日：ビルロートの葬儀が行われた。オーストリア皇帝、ドイツ皇帝をはじめ、多くの弔辞が届いた。柩は大学・医療関係者・音楽仲間等により、ウイーン中央墓地に運ばれ、葬られた。ブラームスは遠くから葬列を垣間見ていた。そして「彼が重い病気になった時、僕は彼を失っていた。死の床から立ち上がった彼は、唯の年寄りで、昔の彼の影でしかなかった」と。

1897年4月6日：ブラームスの葬儀が行われた。音楽の都ウイーンが大葬列をもってブラームスを見送った。彼はビルロートの墓の近くに葬られた。

参考資料

- 1) 日本ブラームス協会編：ブラームスの「実像」音楽之友社 1997年
- 2) 武智秀夫：ビルロートの生涯 考古堂書店 2003年
- 3) 三枝成彰：大作曲家たちの履歴書（下）中央公論社 2009年